

なごや にんちしょう NEWS

H28.2月号

発行：名古屋認知症相談支援センター
n-renkei@nagoya-shakyo.or.jp
☎052-919-6622

名古屋市
認知症コールセンター ☎052-919-6633

受付時間 月・水・木・金…10～16時
火…14～20時（年末年始・祝日除く）

名古屋市認知症コールセンター実績報告

1日あたりの 平均相談件数	H27年10.11月	H27年12月・H28年1月	昨年度同期(12・1月)
	6.1件	5.6件	
			6.2件

地域での実践より…リハビリテーション ～日常生活にある「活動」「参加」～

コールセンターへの相談より… 治療や回復訓練への期待

父はあまり社交的な方ではなく、今ではほとんど外に出ない。薬は飲んでいるが、クロスワードパズルや体操、忘れないようメモをするように言っても長続きしない。病気が進行しないか心配です。（同居の息子より）

「活動」「参加」のある日常… グループホームにて

2015年度介護報酬改定では、「心身機能」の回復訓練に偏りがちだったアプローチから、「活動」「参加」にも焦点をあてたバランスよいリハビリテーションを推進するための改定が行われています。

「もの忘れて悩んでいる。老人会できついこと言われたんや」と、ぼつとつぶやいた。…それから1ヶ月後、デイサービスへの参加を誘いかけた看護師に言った。「あんたがいる所なら、行ってみようかな」…

「認知症の医療とケア」（藤本直規著）クリエイツかもがわ 2008年

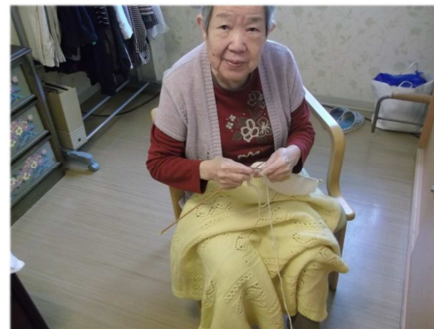
齢を重ねるにつれ、家族や友人と死別したり、退職したり、趣味を続けられなくなったり、以前の社会関係の「喪失」に直面することが多くなります。まして、認知症のひとの場合、病も重なり今までの社会関係を通じた「活動」「参加」の機会は途切れてしまいがちです。

グループホーム（認知症対応型共同生活介護）が認知症のひとにふさわしいといわれるのは、排せつ等の介助は行われますが、少人数の家庭的な雰囲気のもと、日常的に、できる範囲で、皆で協力し合う生活が行われやすい環境だからです。喪失した「活動」「参加」をその人らしく新たな形で自然に取り戻せる環境、と言えるかもしれません。

市内のグループホームにて（写真提供：愛知県グループホーム連絡協議会）

「活動」

何かをつくったり、編み物をしたり
身体を動かすことで心も動きます
心が動くと身体も元気になります



「参加」

ひとりではなくて、ふたりで、皆で。
一緒にやるからこそ、
できること、感じられることがあります



「参加（役割）」

新しいものを創り出したり、育てたり…ひとを助けたり、ひとに教えたり…
そんな時間はかけがえのない時間です



リハビリテーションは、日常的に取り組んでいけるよう、生活の中で実践されてこそ確かなものになります。

前述の報酬改定では、例えば通所リハビリ事業所が「生活行為向上リハビリテーション実施加算」を取得する際には、「家庭での役割を担うこと」や「地域行事等に関与すること」を「家族の協力を得ながら」「生活の中で実践していく」ことが求められています。

母は若い頃から生け花をしてきました。それは家で続けたいし、できればいつも行っていた生け花教室にも行かせてあげたいのだが…（同居の娘より）

家族や地域、専門職が一緒になって、「家庭」「日常生活」にある「活動」「参加」（さらには「役割」）を、認知症になっても継続できる、あるいは新たな形でその人らしく取り戻せる、地域づくりが求められています。